

「東日本大震災・原子力災害伝承館」は 何を伝えるか？

桜井勝延さんの市長選応援のために南相馬を久しぶりに訪れました

常磐道で南相馬へ、そして双葉町の伝承館・富岡町の夜ノ森・東電廃炉資料館を視察しました。

(2022年1/16~1/17)

南相馬市長選挙が1月13日より23日(投票日)まで行われました。前市長桜井勝延さんは「命を守り未来を築く」のスローガンのもと“元気な南相馬市”にしたいと医療・福祉・産業・教育・エネルギーなどの諸施策を展開。「自分たちの地域と命を、自分たちの力で取り戻す選挙です」と訴えています。1/16、必勝を祈念して選挙事務所を訪問、桜井さんへエールを送りました。

23日の投票結果は15625票、968票差で惜敗でした。残念です。桜井さんには南相馬だけでなく日本全国でいまままで以上に活躍して欲しいものです。



1/16 常磐有料道路を通過して南相馬市へ。放射線量はまだまだ下がっていません。有料道路上での表示ですが楢葉周辺は0.1 μ s/h、富岡町にかけては0.3 μ s/h~1.0 μ s/h、大熊町周辺0.5 μ s/h、双葉町2.1 μ s/h、浪江町0.4 μ s/h、南相馬市0.1 μ s/hです。

1/16 はトンガの海底火山の噴火で日本の太平洋側全域で津波警報・注意報が出され双葉町にある「東日本大震災・原子力災害伝承館」も「双葉町産業文化センター」も臨時休館でした。翌日改めて訪問です。

双葉の「伝承館」は2020年9月に開館。常磐道が開通し、JR常磐線も2020オリンピックに合わせて開通し、双葉駅から海に向かっての双葉町での避難指示解除準備区域が除染され解除となり、それに合わせるように「双葉町産業文化センター」が建てられ、その隣に福島県の「東日本大震災・原子力災害伝承館」が建てられました。

東北3県各地に伝承館・みらい館・消防防災センターなどがありますが、ここ双葉町にも福島県の伝承館が53億円(国の交付金)の総工費で建てられました。

運営は指定管理者「公益法人福島イノベーションコースト構想推進機構」です。震災や原発事故の関係資料24万点を所蔵し約170点ほどが展示されているとのこと。

○“原子力明るい未来のエネルギー”の看板は現物展示ではなく写真での展示。2階の展示フロアには「災害の始まり」から「原子力発電所事故直後の対応・・・県として、人々の対応」「原子力災害の影響」が展示され「復興への未来」「福島イノベーションコースト構想」へと展開されています。

現物の展示が少なく動画等の映像表現が多く容易に全体が分かりますが、そのひとつひとつの場面における、“とんでもない津波・地震・安全だと信じていた原発の事故による放射能の拡散”による地域コミュニティの喪失や文化風習がなくなっていく様子が十分表現されていなかったのは残念です。難しくてもいまだに復興できない原因に迫るさまざまな資料の展示が必要な気がしました。具体的に住民が経験した未曾有の苦しみ伝わらないなと感じてしまいます。明るい建物・明るい展示だけで果たして3・11の伝承がなしうるのか疑問です。

○毎日実施している『語り部』のコーナーで運よくお話を聞くことが出来ました。その日の語り部は相馬



市市民で大熊町に勤めていた方の当時の様子を詩と自作の歌で表現するものでした。「2011・3・11 長い時間の大きな揺れ、50 分後の大津波。

関連死を含めて 2000 人の死者(3 県で約 2 万人の方々の死)。翌日 3・12 には原発の爆発で避難命令が出され津波で被災された人の捜索が打ち切られてしまった。何人かの人々を救出できずにきてしまったのでは・・・」と。

○映像展示の説明の中で「1971 年に原発が設置され大きな雇用と日本の高度成長に寄与した。そして 3・11 の地震・津波・原発事故・水素爆発」と原発について語られていました。原発事故は「津波による電源喪失」だけが原因であるかのような語り口でした。(??)

○又原発事故で流出した放射性物質と人々の健康との関係については、「健康に影響する値の放射性物質は出ていない」と福島県健康調査結果を声高に語り、「心の問題です」と語っているだけ。・・・あまりにも「放射能安全神話」にのった説明です。外部被曝・内部被曝の視点で低線量被曝の問題点を含めてチェルノブイリ原発事故そして 3・11 福島第一原発事故の流れの中で科学的に説明して初めて「伝承館」になるのではと思われました。

伝承館の次に富岡町にある「東京電力廃炉資料館」を訪れ 1 時間ほどの説明を受けました。元「福島第 2 原発PR館」を改装したものです。

この館でも展示の多くが映像であり、その動画をみてまわるかたちになってます。震災発生時の福島第一原発 1～4 号炉の被害状況。そしてメルトダウンからデブリ状況の 1～3 号炉の核燃料状態が図画で説明されていました。廃炉へのロードマップも展示されていました。

○デブリは圧力容器を突き抜け格納容器の底にあるとの説明。「格納容器をも突き抜けているのでは？」と私たちの質問に対して説明員ははっきり答えず分からないと。

○資料館の職員の説明は一貫して「地震発生時には制御棒がきちんと入り正常に停止した。その後の津波によって電源が喪失し過酷事故になった」と。地震による破損があったのではと多くの方から指摘されていますがその点はいくまでも否定した説明に終始していました。(???)

○汚染水の問題では、「凍土壁などで地下水は遮断されている。雨などが上から入って水が多くなってしまふ」と。凍土壁は 100%成功していないと多くの方から指摘されているのに、何故このように言うのだろうか？

○トリチウムは「人の体にも自然界にもあるものだから汚染水(処理水)も同じもの。しかも希釈して海上に放出するのです」とまるで何の問題もないかのような説明でした。福島第一原発から海上に放出しようとしているトリチウムの絶対量はどのくらいで、通常稼働中の原発から放出されているトリチウムの絶対量はどのくらい？と問うても答えはなしでした。

原発事故非常事態宣言はまだ解消されていないのです。

夜ノ森の桜並木・青い美しい福島海、なのに多くの荒れたままの田畑・帰還困難区域の立ち入り禁止の看板を見るにつけ原発の罪深さを感じました。

原発神話に酔いしれていた日本の国民、3・11 で目を覚ましたはず・・・

でも 11 年たっても誰一人原発事故の責任を取っていない。これは異常な社会です。不誠実な政治です。正義を取り戻したい・・・



双葉町の「伝承館」



東電廃炉資料館

2022/01/1